



ゆまに書房 YUMANI SHOBOU

ビジュアル

＼ 楽しく学べる、お金の歴史と人々の暮らし。／

日本のお金の歴史

全3巻



私たちが毎日何気なく使用しているお金は、日本ではいつごろ生まれ、どのように使われていたのでしょうか。今から1400年ぐらい前にお金は使われていました。それから現代の「円」にいたるまでの間に、様々なお金が現れたり、消えたりと大変複雑な歴史をたどってきました。本書では、古代から現代にいたるお金の歴史を通して人々の暮らしや経済の仕組みを豊富な写真や図版とともに、解説していきます。

全3巻揃価格（分売可）

同時1アクセス(本体)	同時3アクセス(本体)
¥16,500	¥33,000

< 冊子版ISBN: 9784843347935 >

< 商品コード: - >

各巻の詳細は次頁をご参照下さい。

【本書の特色】

- 日本のさまざまなお金について、オールカラーで豊富な図版と写真を満載。
- お金の歴史が大きく変わった3つの時代に分けて、それぞれの時代の特性を分かりやすく解説。
- お金を通して、古代から現在にいたる日本経済史を学ぶことができる。
- 硬貨や紙幣が時代の変化と共に、どのように変わってきたのかをビジュアルに理解できる。
- ニセ金づくり、悪鋳など、お金にまつわる面白エピソードも紹介。

様々な貨幣を、ビジュアルで紹介します。

ようやくつくれた 日本独自のお金

信長・秀吉・家康が、三貨制度をつくる

100年もの長い戦国時代や、ようやく終わらせ、その後二百数十年の長い平和な近世社会を築いた3人はだれでしょうと聞かれたら、知らない人のほうが少ないでしょう。その最初の人、織田信長はただ戦費をおさめるだけでなく、混乱していた銭貨（銅貨）の使い方についても、不便な状態をスッキリする方向にもってゆきました。

それまで古代の皇朝十二銭や中国から輸入された銀、日本国内で鋳造された模造銀や私貨銀などが取りまわって使われており、1枚あたりの価値が違っていたのです。また、同じ種類の銭貨でも、すり切れて薄くなったものと形が整ったものが、同じにあつかわれなくなっていました。現代にたとえていうと、ちょうど、アメリカのドル札や中国の人民元札に比べて日本のニセ札もはりこみ、さらに古くなってよごれたため千円札が900円か800円ではしか通用しなくなっているような状態です。室町幕府や各地の領主が銭貨をたびたび出して、銭貨が混乱なく流通するようにつとめてきました。

三貨制度成立への動き

年	世	出来事
1569	永禄12	織田●兵、堺銭を出し、高麗取引では金銀を使わせる(三貨使用のはじまり)
1573	天正元	信長●室町幕府を倒し、天下人となる
1582	天正10	●寺の裏のあと徳川に代わって、豊臣秀吉天下人となる
1588	天正16	●寺、天正大判をつくらせる。このころより銀公明銀もつくらせる
1590頃	慶長元	●徳川家康、武蔵番銀小判、銀一分金などをつくる
1598	慶長3	●豊臣秀吉死去。2年後、関ヶ原の戦い。家康天下人となる
1601	慶長6	●家康、大判・小判一分金、丁銀・互換銀をつくる
1603	慶長8	●家康、江戸幕府を開く(銭貨は永楽通宝やその他のピク銭を使用)
1609	慶長14	●幕府、金銀銭貨の交換比率を定定。三貨制度の基礎ができる
1636	寛永13	●幕府、金貨製造を全国にばらばらにする。地方により使われていた(三貨制度の完成)
1670頃	寛文頃	●幕府、金貨製造を全国にばらばらにする。地方により使われていた(三貨制度の完成)

●天正天判
秀吉がはじめて発行。表面に辨造年と製作者が墨書されている。

●徳多御公明銀
朝鮮出兵のとき使用されたといわれる。

●甲州金
眞田氏が16世紀後半に辨造。「半分金」は江戸期金貨の原型になったといわれる。甲州で19世紀初めまで流通。

●天正 種彦金
種彦が天正に上出した金貨。

16世紀後半になると、しん●金や銀がお金として支払いに使われるようになりました。モノが多く売られるようになり、銭貨だけではお金が不足してきたのです。そのころ、近世の三貨制度が成立する芽をつくったのです。豊臣秀吉は信長の死後、天下をとるとすぐに天正大判や各種の銀貨をつくらせ、徳川家康は日本全体を支配する

お金が不可欠な時代がやってきた

ところで、江戸時代は「家づかい銭」といって、買物や金貨のようなお金もあまり必要としない経済を維持はめざしました。徳川幕府は全国を支配するようになる。江戸の町は町おこしの気分で、江戸時代は三貨制度のもとになる時や一分金を製造し、使われていました。しかし、人口の増加と、農産物の価格は高騰し、農民にはお金がなくて生活が苦しくなりました。

江戸時代はもとより、いつか戦いが起こってもいような準備を国民にさせていたもので、大抵の世帯は戦いの際に一番大切な武器を準備して置きました。江戸時代は、戦いも起こる可能性があるというので、しん●金、17世紀には、半割や長割、短割など、武士たちの生活に必要に応じて、お金の準備がとれらるようになります。その多くを農民がとらるようになってきたのです。多くの農民も農産物の多量な生産に、売れるものをつくらせ、売りに出かけたとしても、少しづつお金にふれるようになってきました。

お金は時代とともに必要とされてきました。戦国時代にはとくに買物や買物でも必要とされるようになります。

世	期	代	中世	近世	近代
自然経済	自然経済	自然経済・貨幣経済	貨幣経済	貨幣経済	貨幣経済
	自然経済	自然経済	自然経済	自然経済	自然経済
物産経済	物産経済	物産経済	物産経済	物産経済	物産経済
	物産経済	物産経済	物産経済	物産経済	物産経済
貨幣経済	貨幣経済	貨幣経済	貨幣経済	貨幣経済	貨幣経済
	貨幣経済	貨幣経済	貨幣経済	貨幣経済	貨幣経済

表や年表で要点をまとめ、理解を助けます。

見やすい章立てで、簡潔に解説。見開きで見やすいレイアウト。難し漢字にはルビを付けてあります。

書名	著編者	発行年	冊子版ISBN	同時1アクセス(本体)	同時3アクセス(本体)	商品コード
江戸時代	岩橋 勝	2015	9784843347959	¥5,500	¥11,000	-
飛鳥時代～戦国時代	井上 正夫	2015	9784843347942	¥5,500	¥11,000	-
明治時代～現代	草野 正裕	2016	9784843347966	¥5,500	¥11,000	-

● 表示価格は税抜きです。

2020年10月